

## けがをすると血が出るのはどうして

### 皮の下に血管があるため

体のすみずみまで、どんなところにも血管と神経があります。それで、切るなどのけがをすると、血が出たり、痛みを感じたりするのです。

人間の体は、約60兆ほどの、小さな小さな細胞が集まってできており、その細胞が活動するのに必要な酸素や栄養を、体のすみずみにまで運ぶ役目をしているのが血液です。

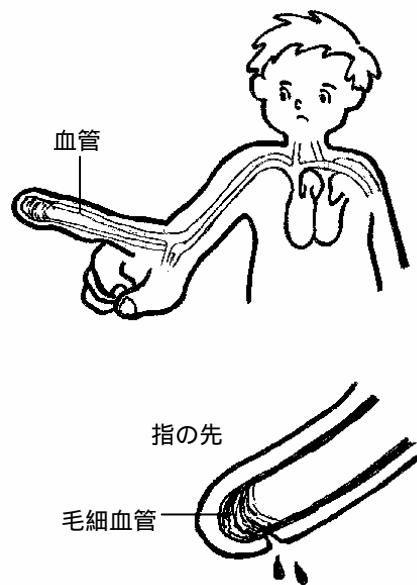
そのため、血液を流すための血管は、体のすみずみにまであみの目のように、はりめぐらされているのです。そのため、切るなどのけがをすると血が出るのです。

### 切っても血が出ないことがあるのは

ところで、わたしたちの体の皮ふは、表皮・真皮・皮下組織の3階建てになっています。血管や神経がきているのは、表皮の下の真皮の部分なので、ここを切るなどのけがをすると、血が出るのです。

体から出るあかとかふけというのは、この外側の皮ふ（表皮）がはがれたものです。つまり、体の外側の皮ふは、生きてはいえないわけで、血管も神経もきていないため、切ったり皮ふがむけたりしても、血が出たり痛みを感じたりしないのです。

（監修・保志 宏）



真皮には血管がきているので、ここを切ると血が出ます。

